



本文そのものと向かい合う

面談をしていると、けっこう「センター国語の勉強法」というのが話題になる。まあ、勉強に関する悩みはある？と質問して、その質問者が国語の先生なわけだから、ついでに聞いてみるか…といったところなのだろうが、実はこの質問は困るのである。というのも、イイ答えがないからである…泣。

そもそもセンター国語がなんで難しいのかというと、時間が足りないという要素が一番大きいのではないだろうか。時間がたっぷり与えられて、最後まで余裕をもって解くことができれば、もう少し点がよくなるに違いない（ただし、古文や漢文の基礎力がない人は時間があってもダメだろうが…）。

かく言う私も、毎年センターの問題に挑戦しているが、その際一切時間は見ないことにしている。ほぼ間違わずに解答できるが、それは80分では解いていないからである。

国語を教えている割には読むのが遅く、それは昔からの悩みであり、それが（国語の教員になった）今になっても改善しないのだから、君たちにも「どうしたら早く読めるのですか？」という質問に対して、ムダな努力は止めなさいと答えているわけだ。（もちろん、それだけでは済まないから、早く読む方法、つまり、二度目・三度目に本文に目を通す際のスピードアップのヒントについては伝授しているわけだが…）。

*

さて、本題に戻ってセンター国語の勉強法だが、そういう質問をしてくる人に色々話を聞いていると、その問題を復習する際に、間違った問の解説はしっかり読んでいるのに、問題文そのものに関する解説をしっかり読ん

でいない人が多いことに気づく。つまり、間違えたことを、「選択肢を選び間違えたこと」と考えて、「正しい選択肢の選び方を学ぼう」としているわけだ。しかし、これが根本的な誤りなのである。

私の尊敬するS台予備校のS先生は、教員向けのセンター指導法講座で、「センターを解く時、間違いを消すという方法が採られるが、大切なことは正解を選ぶことである」とおっしゃっていた。これだけ聞くと禅問答のように聞こえるかも知れないが、S先生がおっしゃりたいことは、「問題を解き間違えるのは、選択肢を選び間違えているからではなくて、本文が読めていないからである」ということなのである。本文が読めていれば、間違いを消さなくても、正しい答えが選べるはずだから。

ということで、復習で大切なことは、それぞれの問の選択肢の解説を読むことではなく、問題文そのものの解説を読み、納得することということになる。模試の解説には、各問の解説の前に、必ず問題文の解説がついているはずだ。必要なければそんなものを置くはずはないのだから、それがどれだけ大切な情報かということが分かる。長い解説は読むだけでも大変で面倒くさいだろうが、そこを我慢して、本文と見比べながら1時間くらいかけてじっくり分析を読み込むことである。そして、「この文は、こういうことが、こういう論理展開で書かれていたのか！」ということが納得できればしめたモノなのである。

中途半端な理解の10題よりも、きっちり理解した1題が「次」につながるのである。